



2018年度 決算説明資料

2019年5月14日（火）
船井電機株式会社

証券コード 6839

I. 決算概要（連結）

1. 第4四半期(2019年1月-3月) 決算概要
2. 通期(2018年度) 決算概要
3. 通期(2018年度) 経常利益・当期純利益
4. 機器別売上高
5. DVD関連機器の売上高
6. テレビ関連機器の売上高
7. 情報機器の売上高
8. 仕向地別売上高
9. 営業利益増減要因
10. 貸借対照表の状況
11. 棚卸資産
12. 設備投資額・減価償却費・研究開発費
13. 2019年度通期業績予想
14. 機器別売上高計画

1. 第4四半期(2019年1月-3月) 決算概要

〈単位：億円〉

	2017年度 4Q	2018年度 4Q	前年同期比 ()は増減率
売上高	214	245	+31 (+14.8%)
営業利益 (営業利益率)	△50 (△23.4%)	11 (4.8%)	+61
経常利益 (経常利益率)	△60 (△28.3%)	14 (6.1%)	+74
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (四半期純利益率)	△92 (△43.1%)	19 (7.8%)	+111

期中平均為替レート (米ドル)	107. ⁴⁶ 円	110. ²⁷ 円
-----------------	----------------------	----------------------

月末為替レート (米ドル)	17年12月	18年3月	18年12月	19年3月
	113. ⁰⁰ 円	106. ²⁴ 円	111. ⁰⁰ 円	110. ⁹⁹ 円

2. 通期(2018年度) 決算概要

〈単位：億円〉

	2017年度 実績	2018年度 計画	2018年度 実績	前年同期比 ()は増減率	計画比 ()は達成率
売上高	1,301	1,050	1,055	△246 (△18.9%)	+5 (100.5%)
営業利益 (営業利益率)	△108 (△8.4%)	4 (0.4%)	6 (0.6%)	+114	+2
経常利益 (経常利益率)	△119 (△9.2%)	4 (0.4%)	13 (1.3%)	+132	+9
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	△247 (△19.0%)	12 (1.1%)	26 (2.5%)	+273	+14

期中平均為替レート (米ドル)	110. ⁶⁹ 円	107. ⁸⁵ 円	111. ⁰⁶ 円
-----------------	----------------------	----------------------	----------------------

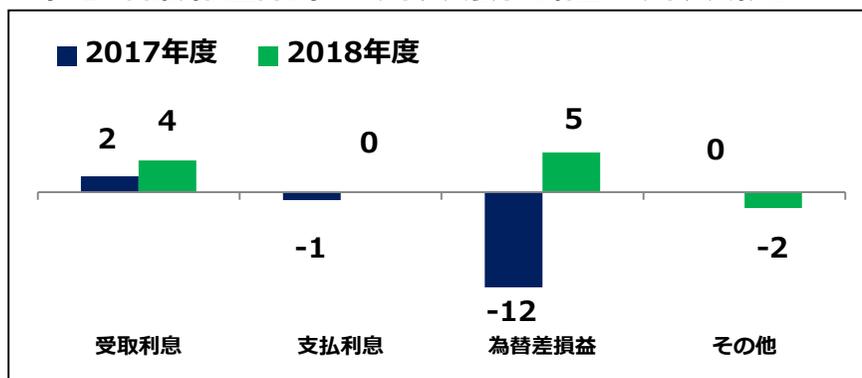
月末為替レート	18年3月	19年3月
(米ドル)	106. ²⁴ 円	110. ⁹⁹ 円

3. 通期(2018年度) 経常利益・当期純利益

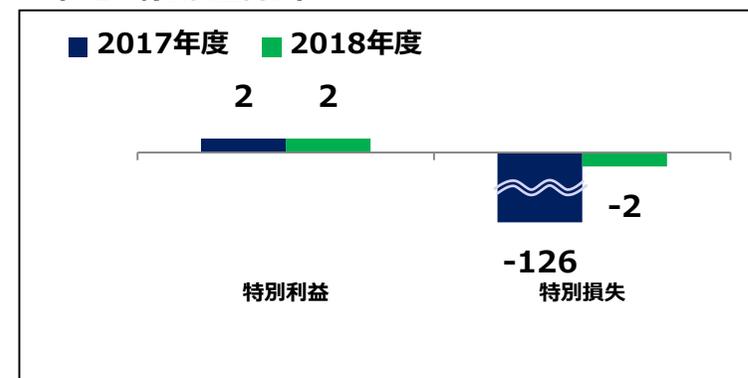
〈単位：億円〉

	2017年度 実績	2018年度 実績	前年同期比
営業利益	△108	6	+114
営業外収益	(※1) 5	11	+6
営業外費用	16	4	△12
経常利益	△119	13	+132
特別利益	(※2) 2	2	0
特別損失	126	2	△124
税引前純利益	△243	13	+256
法人税等	4	△13	△17
親会社株主に帰属する 当期純利益	△247	26	+273

(※1 営業外損益内訳) マイナス表示は利益にマイナス影響



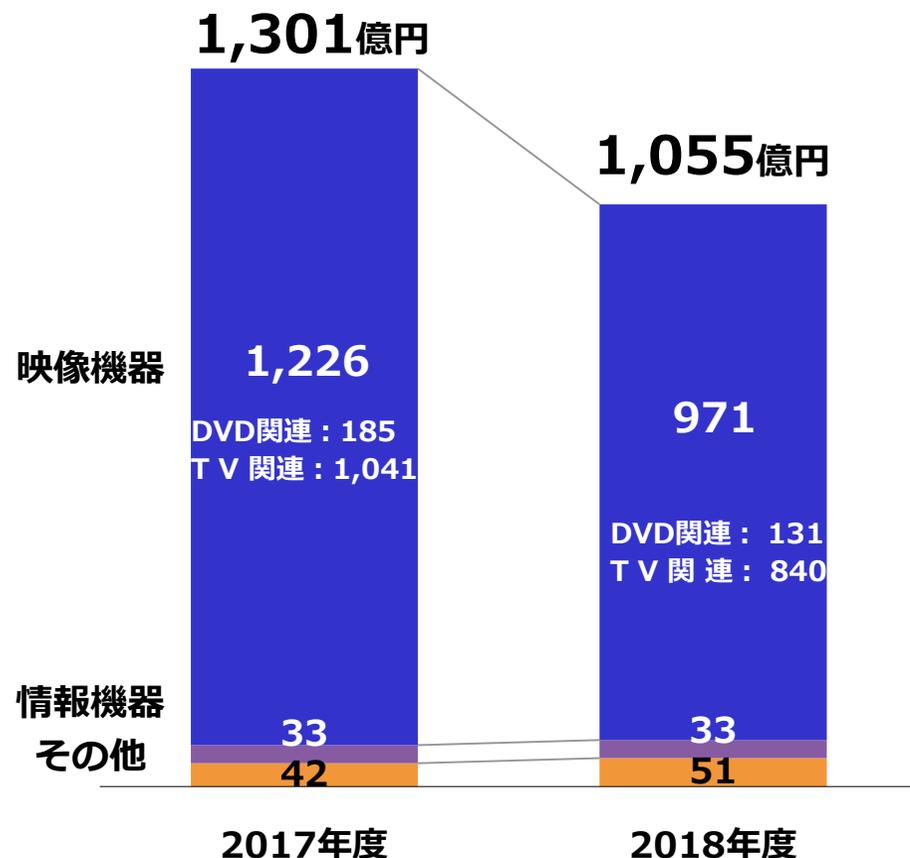
(※2 特別損益内訳)



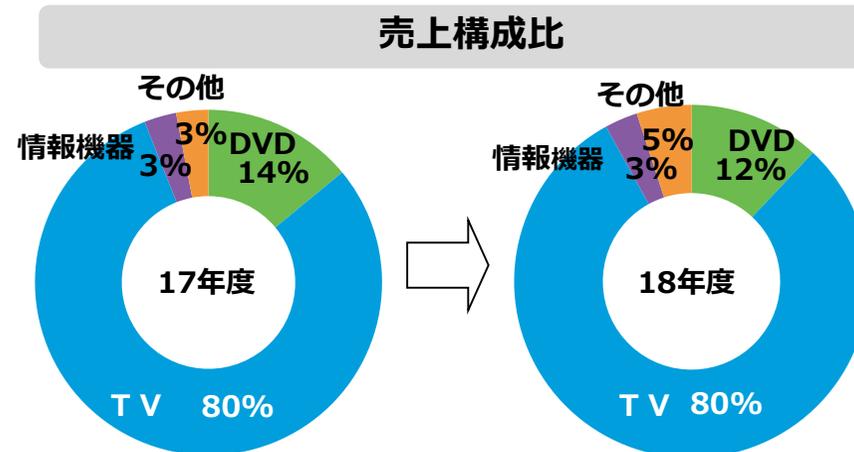
4. 機器別売上高

- ▶ 映像機器：北米の流通在庫調整局面の影響にてDVD関連及びTV関連の売上減少により減収
- ▶ 情報機器：インクジェットプリンターの販売減、業務用インクカートリッジの売上増加により横ばいを維持

〈単位：億円〉



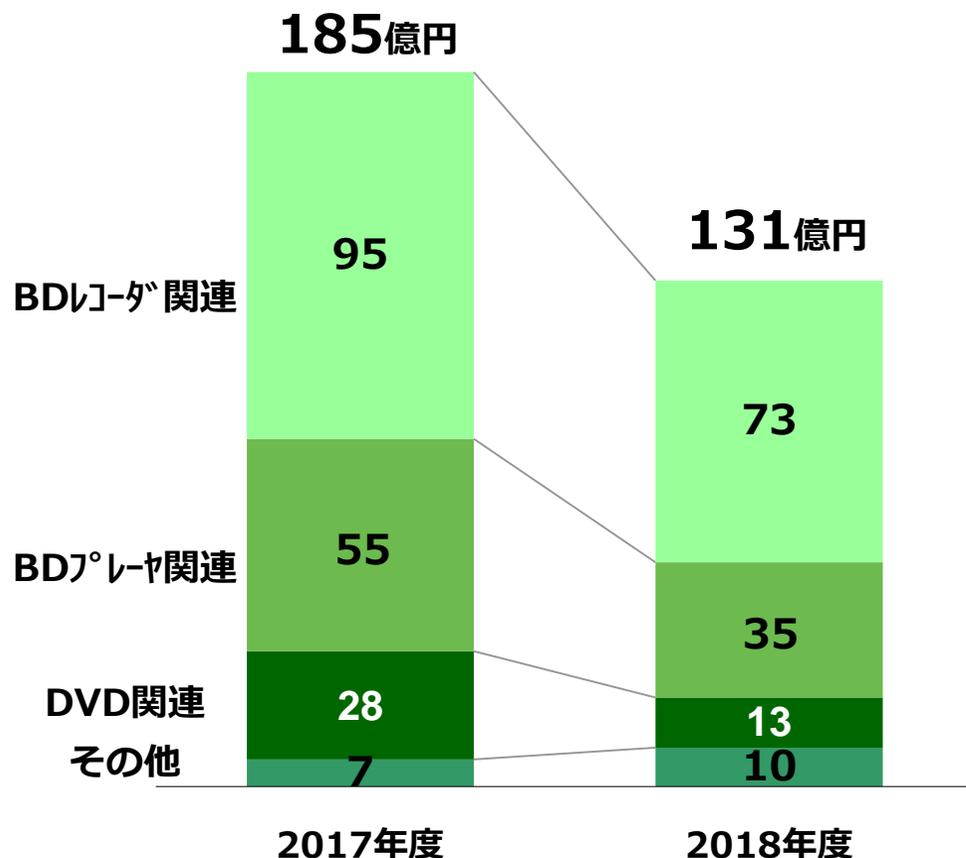
Category	前年同期比	()は増減率
映像機器	△255億円	(△20.8%)
DVD 関連	△54億円	(△29.0%)
TV 関連	△201億円	(△19.4%)
情報機器	△0億円	(△0.8%)
その他	+9億円	(+22.7%)
合計	△246億円	(△18.9%)



5. DVD関連機器の売上高

▶ インターネット動画配信サービスの影響を受けDVD・BD関連製品の需要が落ち込んだことなどにより減収

〈単位：億円〉

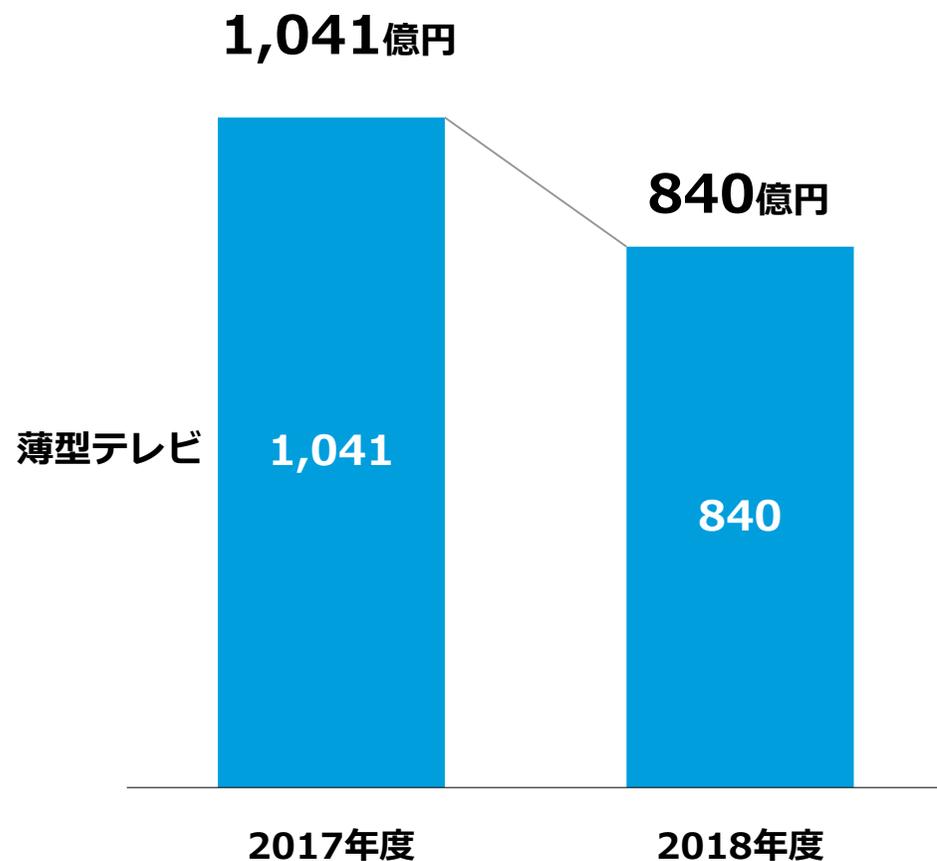


	前年同期比 () は増減率	
BDレコーダ関連	△22億円	(△22.6%)
BDプレーヤ関連	△20億円	(△36.3%)
DVD関連	△15億円	(△54.3%)
その他	+3億円	(+43.0%)
合計	△54億円	(△29.0%)

6. テレビ関連機器の売上高

➤ 主力販売市場の北米マーケットにおいて流通在庫調整局面が続き、新規販売が伸び悩み減収

〈単位：億円〉

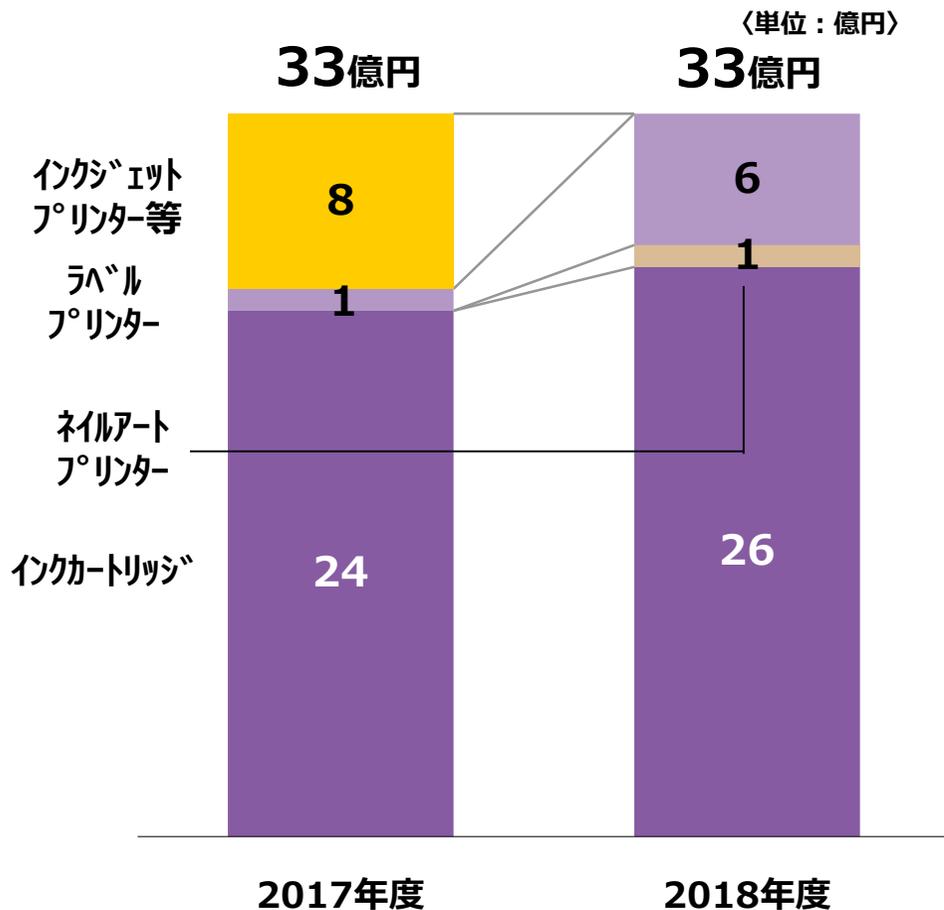


前年同期比 () は増減率

薄型テレビ △201億円 (△19.4%)

7. 情報機器の売上高

➤ 不採算製品のインクジェットプリンターの販売を絞った一方で、新製品であるラベルプリンター、ネイルアートプリンターの販売及び業務用インクカートリッジの売上増加により横ばいを維持

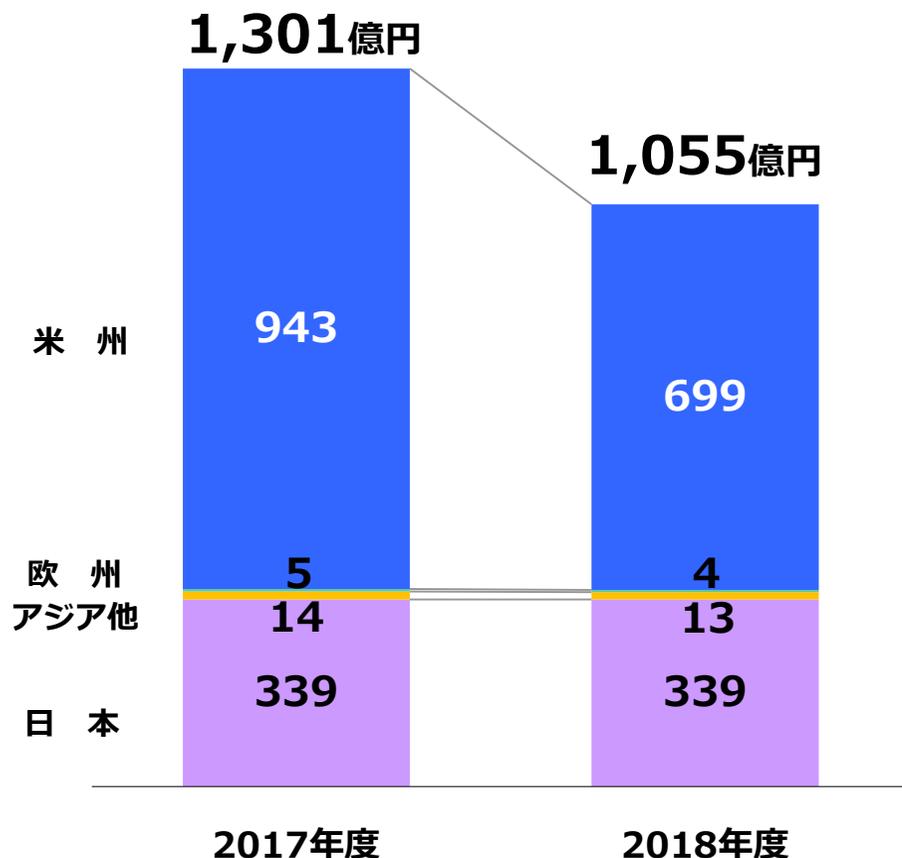


	前年同期比	()は増減率
インクジェットプリンター等	△8億円	(△94.3%)
ラベルプリンター	+5億円	(+556.1%)
ネイルアートプリンター	+1億円	(-)
インクカートリッジ	+2億円	(+5.7%)
合計	△0億円	(△0.8%)

8. 仕向地別売上高

➤ 米州：北米マーケット全体が過剰在庫を抱え、大手量販店が在庫処分を先行させた結果、液晶テレビ、DVD・BD関連製品の新規販売は伸び悩み減収

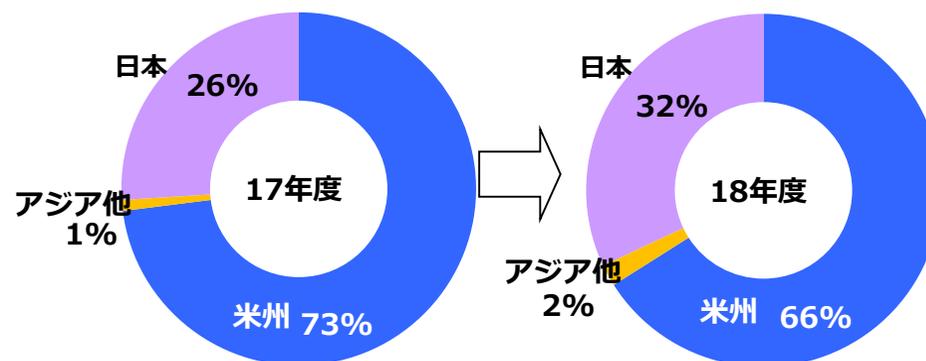
〈単位：億円〉



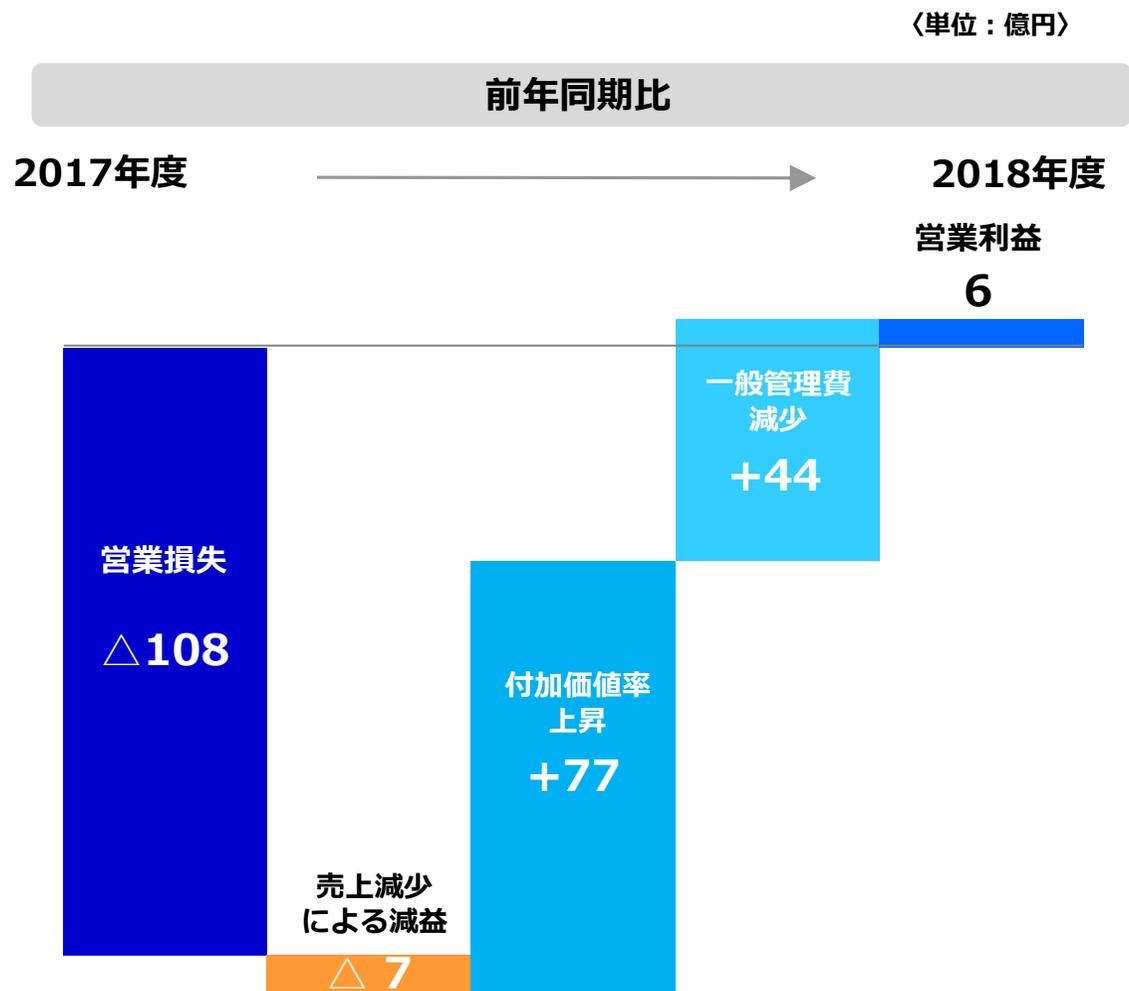
前年同期比 () は増減率

米州	△244億円	(△25.9%)
欧州	△1億円	(△27.0%)
アジア他	△1億円	(△5.0%)
日本	+0億円	(+0.1%)
合計	△246億円	(△18.9%)

売上構成比



9. 営業利益増減要因



10. 貸借対照表の状況

〈単位：億円〉

2018年3月末比

資産の状況

負債・純資産の状況

	2018年3月末	2018年12月末	2019年3月末
現金預金	323	334	354
売上債権	99	102	77
棚卸資産	236	238	252
固定資産他	144	151	149
仕入債務	118	157	156
未払金他	177	149	136
純資産	507	519	540
	802	825	832

資産の状況	2018年3月末比
・現金預金	+31億円
・売上債権	△22億円
・棚卸資産	+16億円
・固定資産他	+5億円

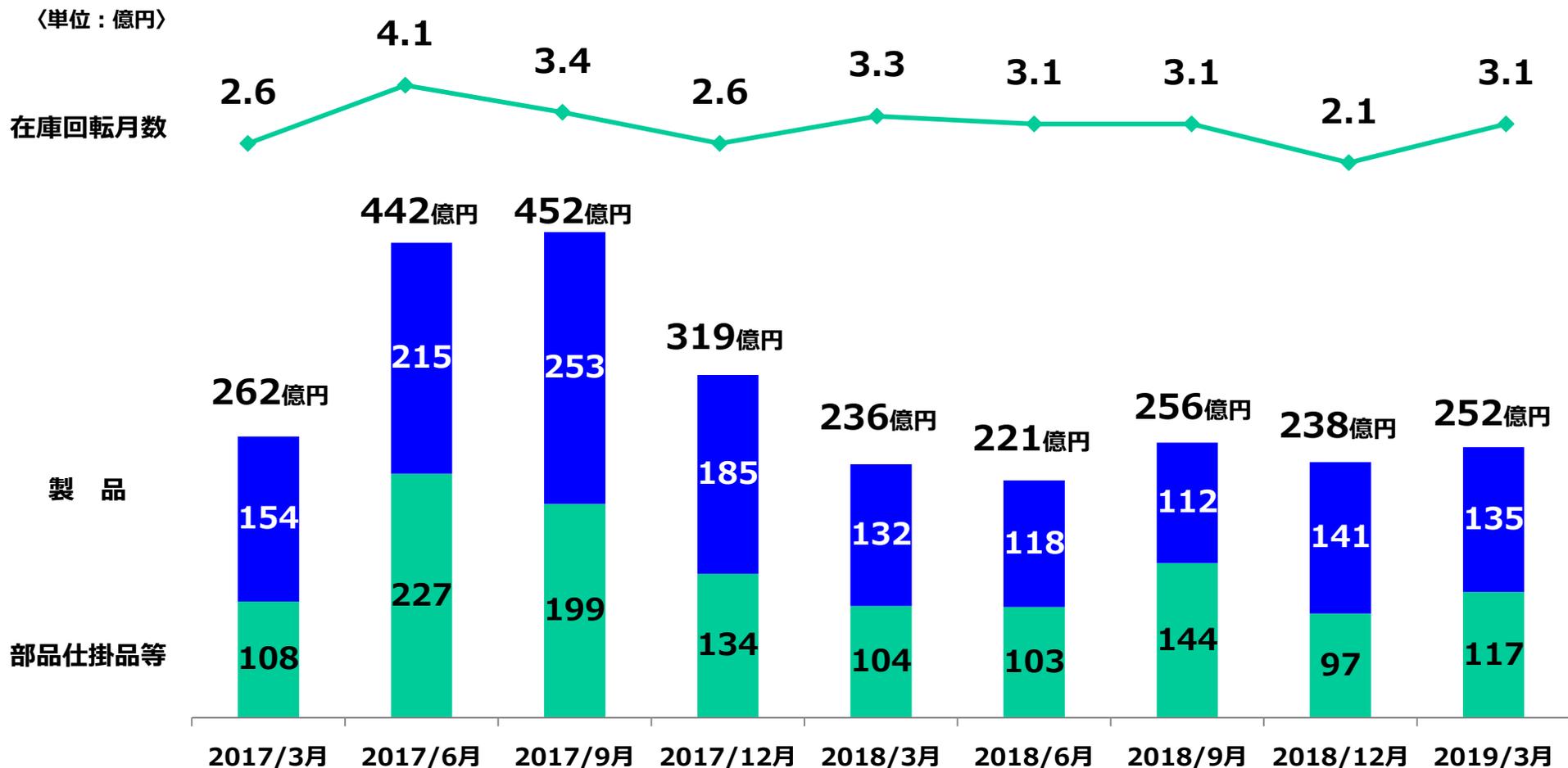
負債の状況	2018年3月末比
・仕入債務	+38億円
・未払金他	△41億円
純資産の状況	+33億円
(自己資本比率)	64.9%

2018年3月末 2018年12月末 2019年3月末

11. 棚卸資産

2018年3月末比

製品 : +3 億円
 部品仕掛品等 : +13 億円

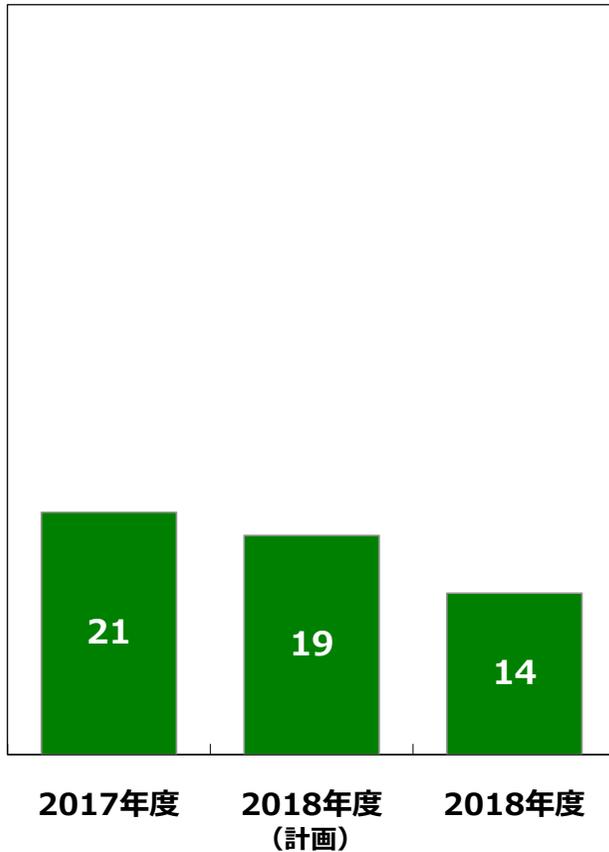


* 在庫回転月数 = 直近3か月売上平均 ÷ 棚卸資産

12. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

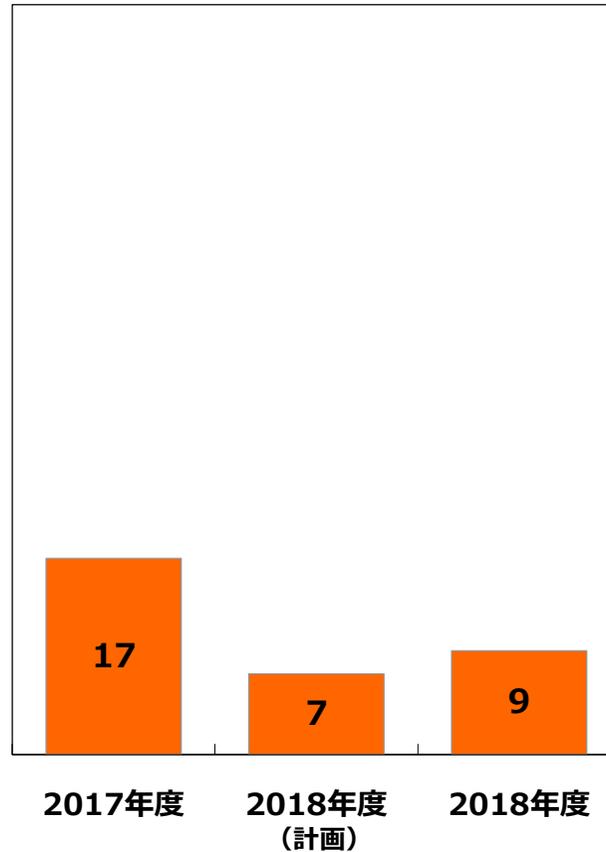
設備投資額

【2017年度比】 △7億円



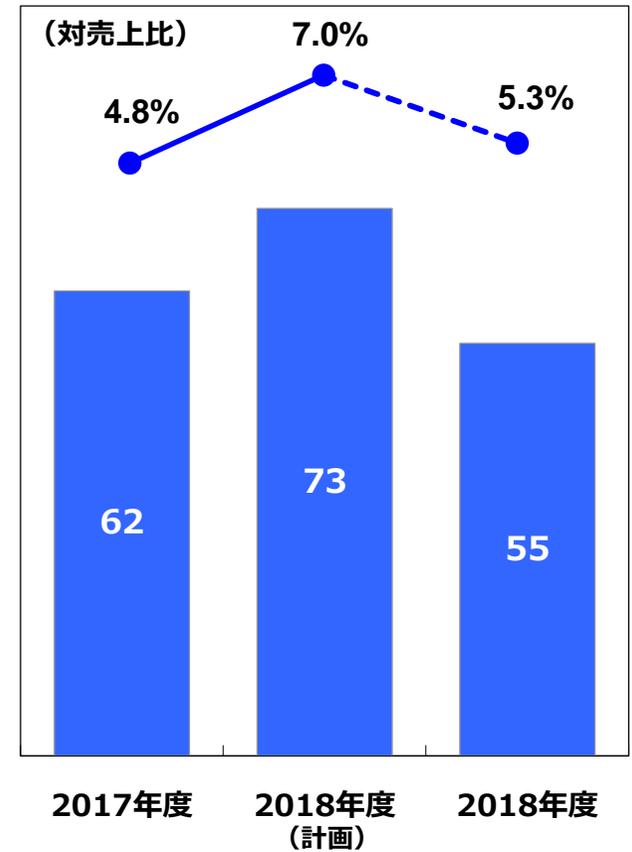
減価償却費

【2017年度比】 △8億円



研究開発費

【2017年度比】 △7億円



13. 2019年度 通期業績予想

〈単位：億円〉

	2018年度 実績			2019年度 計画			実績比増減 ()は増減率		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	467	588	1,055	520	560	1,080	+53	△28	+25 (+2.4%)
営業利益	△16	22	6	△12	16	4	+4	△6	△2
(営業利益率)	(△3.5%)	(4.0%)	(0.6%)	(△2.3%)	(2.9%)	(0.4%)			
経常利益	△2	15	13	△12	14	2	△10	△1	△11
(経常利益率)	(△0.4%)	(2.7%)	(1.3%)	(△2.3%)	(2.5%)	(0.2%)			
親会社株主に 帰属する 当期純利益	6	20	26	△12	13	1	△18	△7	△25
(当期純利益率)	(1.4%)	(3.3%)	(2.5%)	(△2.3%)	(2.3%)	(0.1%)			

期中平均レート (対米国ドル)	110.70円	111.42円	111.06円	110.00円	108.00円	109.00円
--------------------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

14. 機器別売上高計画

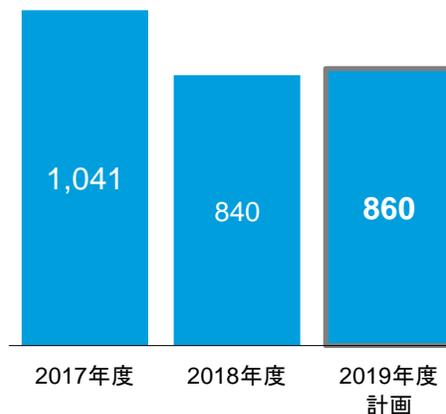
DVD関連機器

【2018年度比】 △8.4%



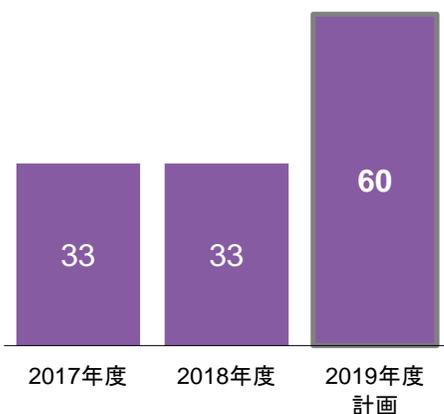
テレビ関連機器

【2018年度比】 +2.4%



情報機器

【2018年度比】 +81.8%



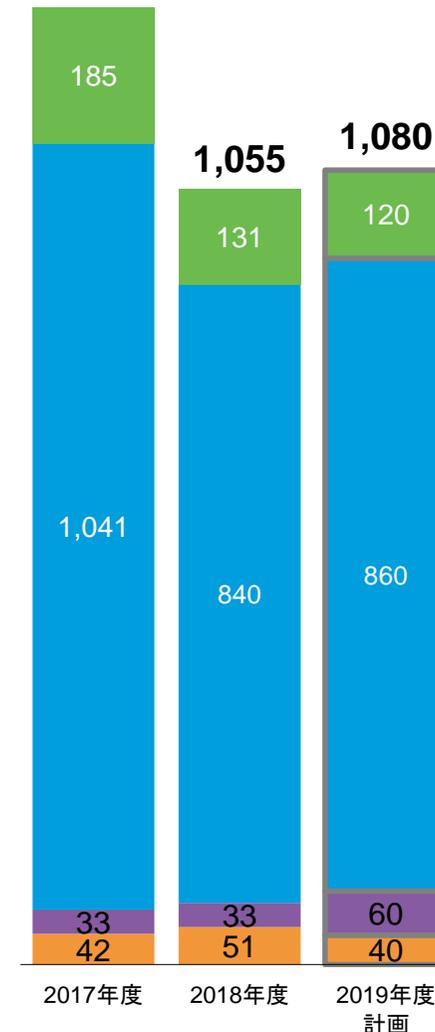
新規・その他

【2018年度比】 △21.6%



1,301

〈単位：億円〉



中期経営方針（2018～2020年度） 2018年度の振り返りと今後の施策

2019年 5月14日（火）

船井電機株式会社
代表取締役 執行役員社長
船越 秀明

【基本理念】

夢と信念、情報と行動

【経営理念】

社会に役立つ夢ある企業への挑戦

【グループビジョン】

FUNAIは世界中から選ばれる製品を創る

“世界中から”

グローバル企業として

“選ばれる”

業界トップシェアを目指し

“製品を創る”

愛される製品を開発する

既存事業再構築と新製品投入により収益基盤確立

2018年度（67期）



- マーケットシェア拡大
- FUNAIブランド浸透
- 新規製品の立ち上げ

基本施策

マーケットシェア
拡大

FUNAIブランド
浸透

新規製品の
立ち上げ

2018年度実績

- ・ 北米：WM以外の手量販店と取引拡大
- ・ 国内：FUNAIブランド販売増

- ・ 効果的な広告展開（エンゼルス）
- ・ FUNAIブランド浸透 = 販売増

- ・ プリンターヘッド技術を応用した新製品展開
- ・ 医療・車載機器分野の開発加速
- ・ EV関連の開発開始

➤ 赤字脱却に向けた施策を完遂

OS事業

- ・ 2017年度：不採算インクジェットプリンターの販売縮小
- ・ 2018年度：新製品の販売を開始（ネイルアートプリンター等）

メキシコ 販売

- ・ 2017年度：中米市場の販売体制見直し ⇒ 抜本的な構造改革実施
- ・ 2018年度：不採算な取引を削減し、収益体質を大幅改善

材料差損

- ・ 2017年度：パネル・部材高騰により材料差損発生
- ・ 2018年度：コストダウンの取り組み等により、材料差益を計上

在庫/評価損

- ・ 2017年度：北米テレビ市場縮小 ⇒ 販売促進費等の支出増加
- ・ 2018年度：流通在庫調整が終息

2018年度 黒字化計画を達成

〈単位:億円〉

	2018年度 計画
売上高	1,050
営業利益 (営業利益率)	4 (0.4%)
経常利益 (経常利益率)	4 (0.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	12 (1.1%)

計画達成

2018年度 実績	計画比
1,055	+5
6 (0.6%)	+2
13 (1.3%)	+9
26 (2.5%)	+14

事業再構築の総仕上げと持続的成長への布石

2018年度（67期）

黒字化

- マーケットシェア拡大
- FUNAIブランド浸透
- 新規製品の立ち上げ

2019年度（68期）

新規事業
本格展開

- 更なるマーケットシェア拡大
- 新規事業の本格化
- μ Fluidics事業化

2020年度（69期）

持続的成長
ステージへ

- EV事業化
- アライアンスビジネスの本格展開

2019年度（68期）の経営課題

経営スピードの加速化

- ・スピーディな事業展開
- ・全社的な業務スピードアップ
- ・生産拠点の最適化

環境変化への迅速な対応

環境変化に対応した最適地生産体制と工場再編

～中国工場での生産を終息へ～
深圳・香港中心に部品のSCM構築

中国（広東省 深圳） 香港

部品IPO拠点



日本

有機ELテレビ
車載用バックライト
医療機器



～メキシコ工場の最適化～
ファブレス化による固定費削減

メキシコ



大型液晶テレビ中心

タイ

液晶テレビ



フィリピン
(リマ)

BDR/BDP
プリンター



フィリピン
(セブ)

プリンターヘッド
インクカートリッジ



アライアンスを通じた新規事業展開の加速

2019年度（68期）

新規事業
本格展開

- 新規事業の本格化
- μ Fluidics事業化

基本施策

新規事業の本格化

μ Fluidics事業化
(プリンターヘッド技術の応用)

2019年度計画

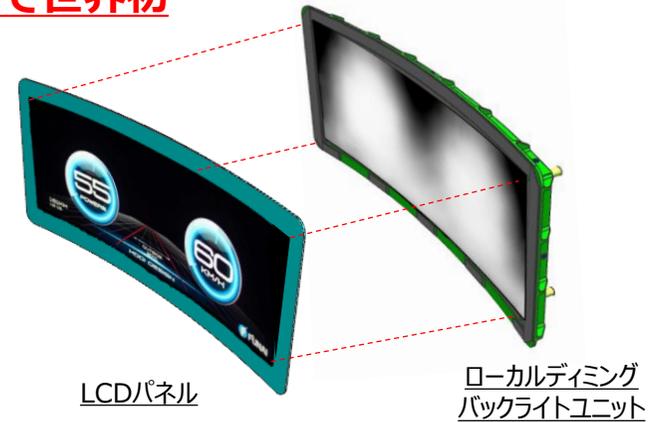
- ・ 車載関連
 - 車載バックライト量産スタート
 - インバーター、メーターパネルユニットなどの開発の本格化
- ・ 医療・ヘルスケア機器
 - 歯科用CTの販売拡大
 - 電動ベッドの販路拡充
- ・ 特殊プリンターの本格展開
(ネイルアートプリンターなど)
- ・ P&Gとのビジネス開始

➤ 新規事業展開：車載用機器・EV

■ 車載用バックライトユニット

- ・薄型・直下型ローカルディミング バックライトユニット
- ・**当社独自の光均一化技術**を使用し、車載ディスプレイの技術トレンドである**多様化(※)**を実現
 - ※多様化=フリーフォーム、高画質(高輝度、高コントラスト)、湾曲
- ・液晶TVで培った映像・光学技術を用い、バックライトユニットから、LEDドライバー基板のユニット化、LCM化への展開を計画

車載用として世界初



■ メーターパネルユニット

- ・FOMM社向けメーターパネルを開発中
- ・液晶TVで培った映像・光学技術による高視認性
- ・TV画像処理、録画、DSCの撮像技術などを組み合わせたHMI (Human Machine Interface)機器への製品展開を目指す



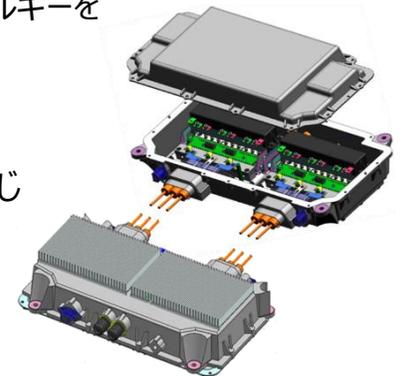
メータパネル



HMI機器

■ インバータユニット

- ・EVパワートレインのキーコンポーネントである車両走行用インバータ
- ・車両からのトルク指示に基づき前進/後進を行い、減速時に発生するモーター回生エネルギーをバッテリーに回収
- ・FOMM社向けインバータユニットを外部開発会社からの技術導入を通じ先行開発中



➤ 新規事業展開：医療・ヘルスケア機器

■ 歯科用CT



- ・着実に販売拡大
- ・欧州市場へも展開

■ 電動ベッド



コントローラ・リモコン

- ・国内市場参入
- ・産学連携により介護用ベッドを開発中

➤ 新規事業展開：プリンターヘッド技術の応用製品

■ スキンケア

プリンターヘッド技術とエレクトロニクスを用いてセンサーでシミを感知し、微細に制御された液体ファンデーションを塗布する化粧デバイス

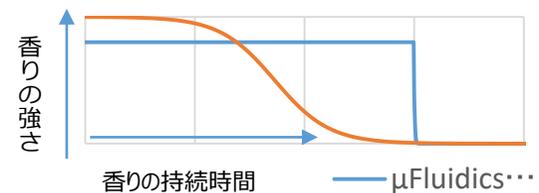


※当社は吐出デバイス（カートリッジ）を最終商品用に開発しております

■ エアケア

電子芳香剤噴霧デバイス

プリンターヘッド技術を用いて吐出量が制御された香料を空气中に噴出する芳香剤用デバイス



時間が経っても均一な強さで吐出できる
朝、昼、夜で香りの強さを変える 等の吐出量の調整が自在

※当社は吐出デバイス（カートリッジ）を最終商品用に開発しております

ディスプレイ

成長マーケットへの経営資源集中

- 北米：クリスマス商戦への取り組み強化／Android TVラインアップ拡充
- 日本：4kチューナー搭載テレビ（高度BS TV）の投入
- メキシコ販売体制：ビジネスモデル再構築によるシェア回復
- アフターサービス費用削減への取り組み強化

デジタルメディア

生き残りをかけた展開

- 北米：Samsung BDP市場撤退によるシェア奪還
- 日本：ハイエンドモデル投入によるシェア拡大
- EU他：新たなマーケットとして販売を検討中

2019年はAndroid TVラインアップ^o拡充 音声マイク内蔵Android TVも投入を計画

Philips Adding Android TV to 2019 Lineup

Joe Palenchar | Jan 10, 2019



The number of smart TVs running on the Android TV platform is growing with the CES 2019 announcement that select Philips-brand TVs will feature the platform in 2019.

The Philips brand, marketed in the U.S. by Funai Corp., plans two series of Android TVs, each with five display sizes ranging from 43 to 75 inches at prices starting at \$350.

Funai's New Philips 24" Kitchen Android TV Is Perfect for Your Kitchen Countertop

TOPICS: Android CES Kitchen Gadgets Philips Smart TVs

Posted By: Greg Alston January 8, 2019

f Share

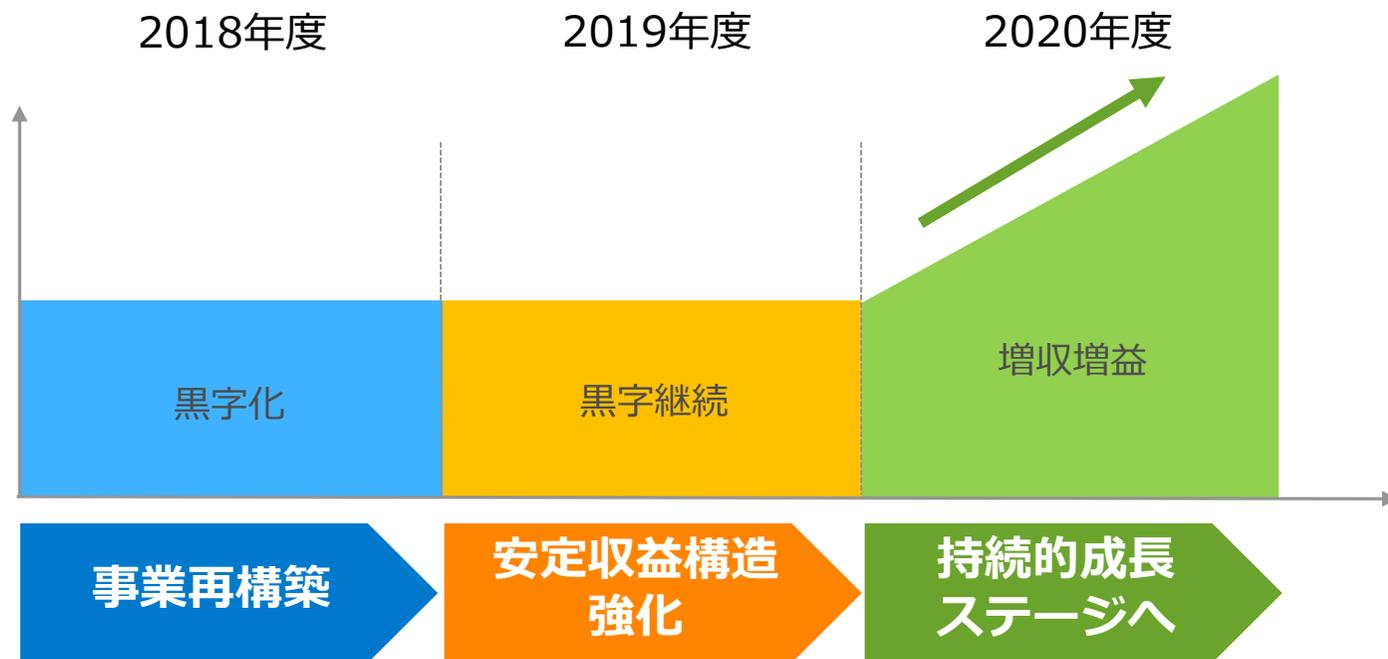
Tweet



One thing I hate about making meals in the kitchen is that most of the time I'm away from my television, so I end up missing that important catch in the playoffs or the plot of a tv show. Now thanks to Funai, Philips is introducing a 24" Kitchen Android TV complete with Google Assistant

➤ 中期業績目標値（見直し）

収益構造強化から持続的成長ステージへ



(単位:億円)

	2018年度 実績	2019年度 計画	2020年度 目標
売上高	1,055	1,130* → 1,080	1,300
営業利益	6	7* → 4	11

(* 2018年5月発表数値)

今期は安定した
収益構造の確立
に重点



補足資料

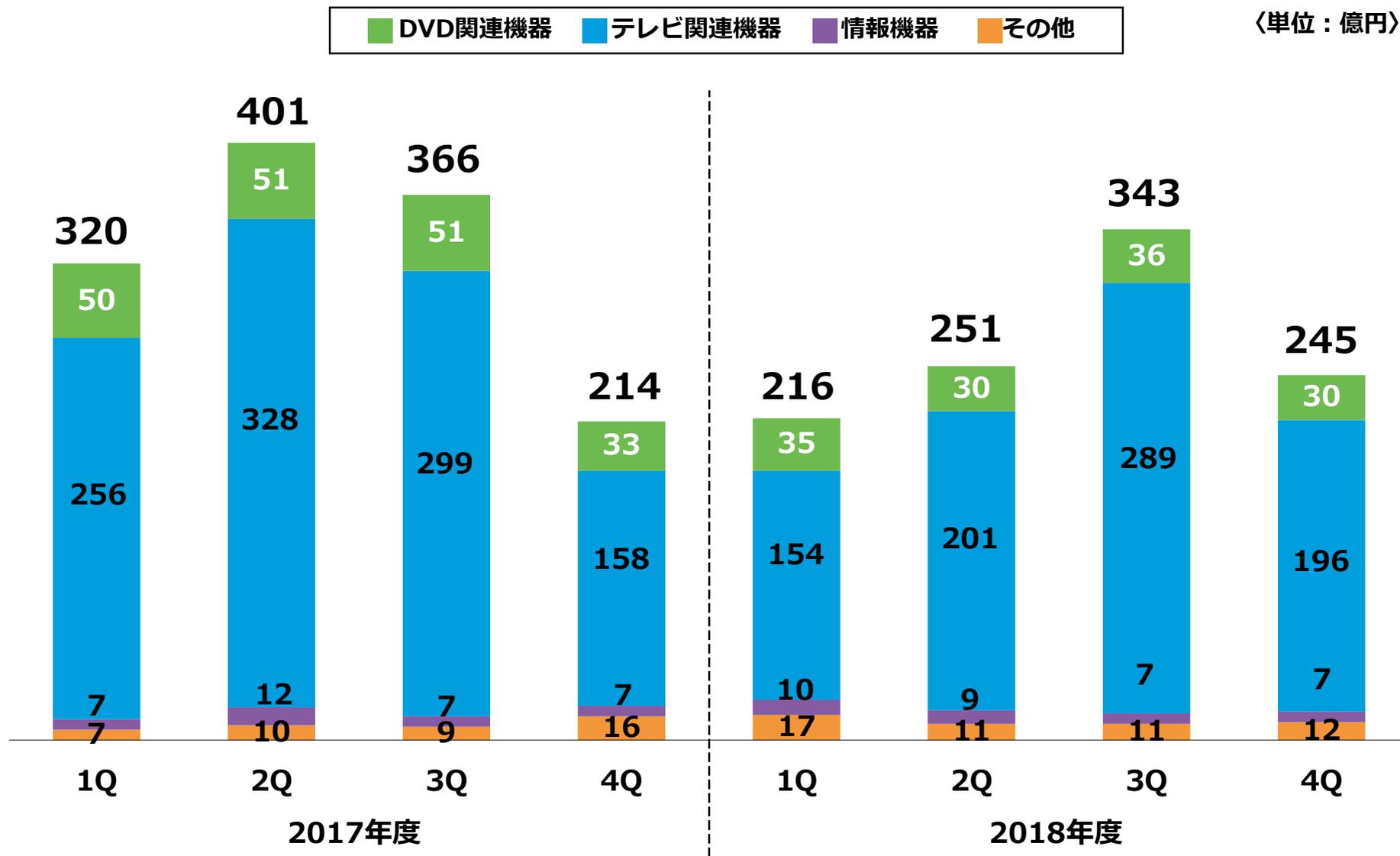
1. 四半期別決算概要
2. 機器別売上高の推移（四半期）
3. 仕向地別売上高の推移（四半期）

1. 四半期別決算概要

〈単位：億円〉

	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	320	401	366	214	216	251	343	245
営業利益	△23	△17	△18	△50	△12	△4	11	11
(営業利益率)	(△7.3%)	(△4.3%)	(△5.0%)	(△23.4%)	(△5.7%)	(△1.6%)	(3.4%)	(4.8%)
経常利益	△21	△14	△22	△60	△9	7	+0	14
(経常利益率)	(△6.7%)	(△3.7%)	(△6.1%)	(△28.3%)	(△4.2%)	(2.9%)	(0.2%)	(6.1%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△15	△115	△24	△92	△0	6	+0	19
(四半期純利益率)	(△4.7%)	(△28.9%)	(△6.6%)	(△43.1%)	(△0.1%)	(2.7%)	(0.2%)	(7.8%)
為替レート (円/米国ドル)	111. ⁴¹	111. ¹⁶	112. ⁷³	107. ⁴⁶	109. ⁵³	111. ⁸⁸	112. ⁵⁷	110. ²⁷

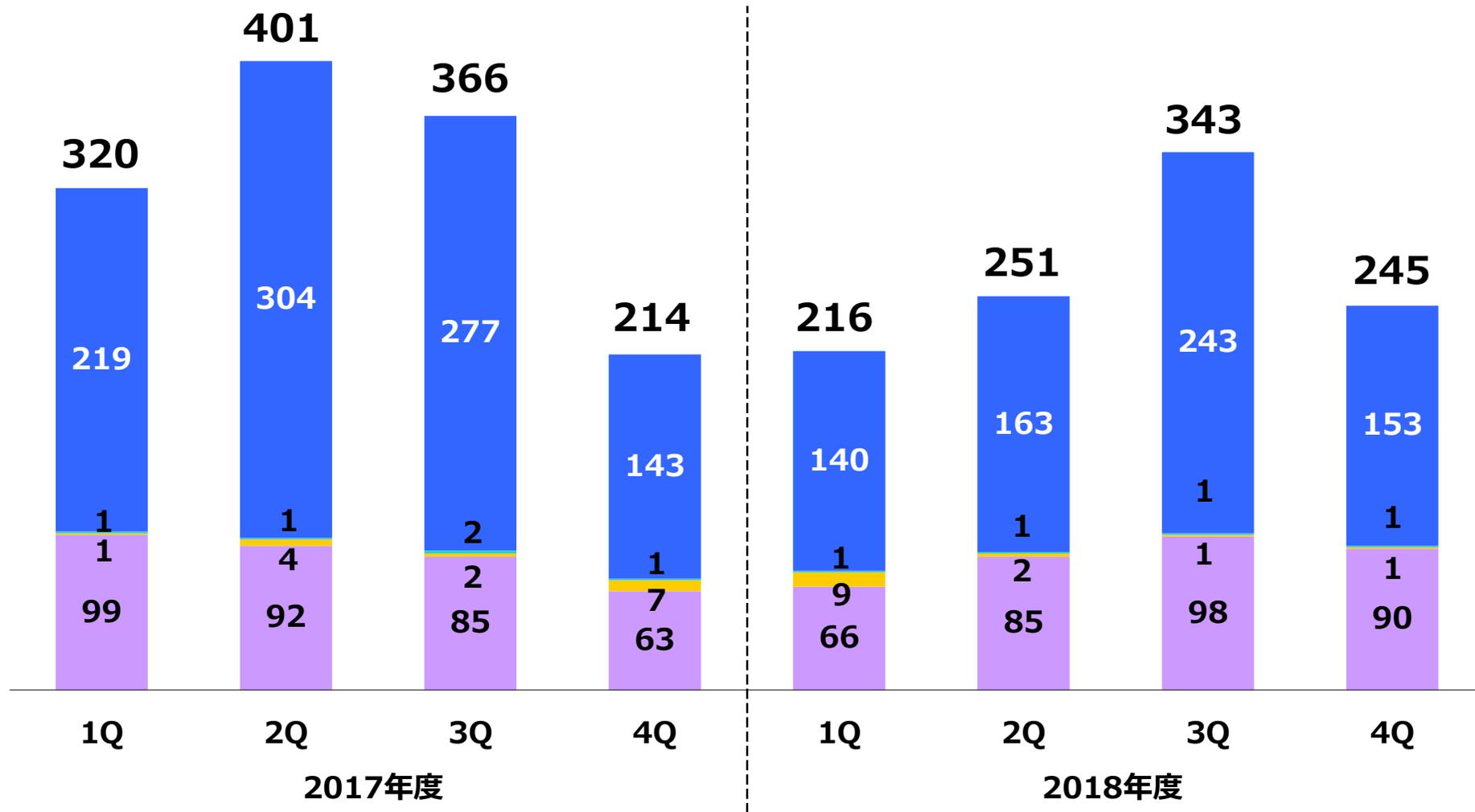
2. 機器別売上高の推移（四半期）



3. 仕向地別売上高の推移（四半期）



〈単位：億円〉



本資料には、歴史的事実ではない将来の業績に関する予想及び見通しについての記載が含まれています。

これらの記載は、映像機器及び情報機器をはじめとする当社及び当社グループ会社の事業に関連する業界動向、国内外の経済状況並びに為替レートの変動その他の業績に影響を与える可能性のある要因について、現時点で把握可能な情報をもとにした仮定及び見通しを前提としています。

したがって、実際の業績は、エレクトロニクス業界における競争状況、市場動向、為替動向、新製品の導入及びその成否、税制や諸制度に関する世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受け、本記載の予想及び見通しとは大きく異なる場合がありますのでご承知おきください。